

特集 「伝統文化(技術)の中で今を生きるカラーデザイン」

和柄 — 伝統文化を後世に伝える為のイノベーション —

“WAGARA” — Innovation to Pass on Traditional Culture to Future Generations —

成願 義夫 Yoshio Jogan

株式会社京都デザインファクトリー

Kyoto design factory Co., Ltd.

私は図案家です。本業は着物の図柄のデザイナーです。

私達『京都の図案家』が生まれたのは、江戸時代中期に型友禅が発明されてからです。型友禅の出現は、それまでとても高価で貴重だった友禅染の大量生産を可能にしました。その結果、庶民に型染めの呉服が普及し需要が拡大しました。『型友禅』を染めるには文字通り型紙が必要で、型を彫るには、紙に描いた下絵が必要となります。江戸時代当初は画家が余技として着物の下絵を描いていましたが、需要の拡大とともにそれを本業にする人が出てきました。それが、日本におけるデザイナー（図案家）の始まりです。型友禅の

着物作りは浮世絵の「版元」「絵師」「彫師」「摺師」の四位一体の關係に似ています。すなわち版元は現代の間屋、絵師は図案家、彫師は型制作所、摺師は染工場です。この工程のどれが欠けても着物を市場に出す事はできません。このように特に図案家は染織産業中でも最も重要な仕事をしています。ただ一点、浮世絵と大きく違っていたことがありました。それは絵師である図案家が、着物の長い歴史の中で、脚光を浴びる事がほとんど無かったという事です。そして今でも図案家の存在は一般の人にはあまり知られていないのです。残念な事に近年の和装産業の衰退は、図案家にも少なからず影響を及ぼしています。図案家を育てる為

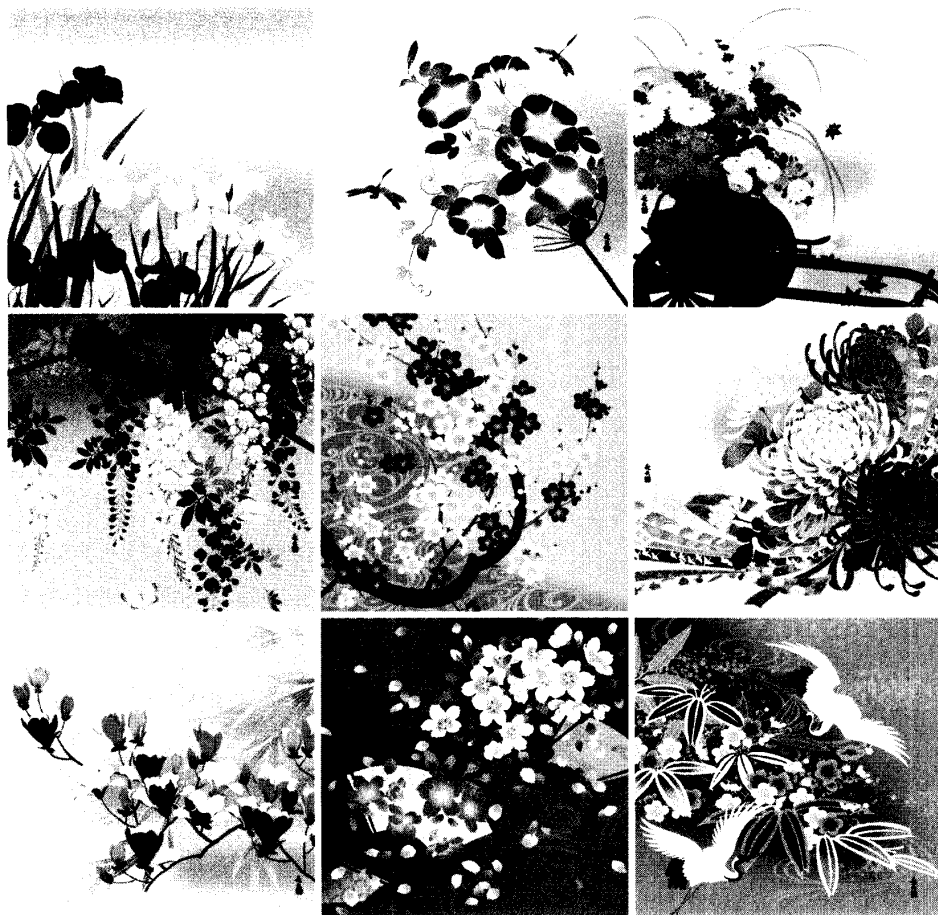


図1
来年度の和柄カレンダーデザインです。
伝統的な和柄をグラフィックに応用したひとつの例といえます。
(1月『祝賀(鶴に竹梅)』2月『春告草(梅)』
3月『木蓮』4月『花扇子(桜)』5月『藤』
6月『花菖蒲』8月『朝顔』10月『花車』
11月『大輪菊』)

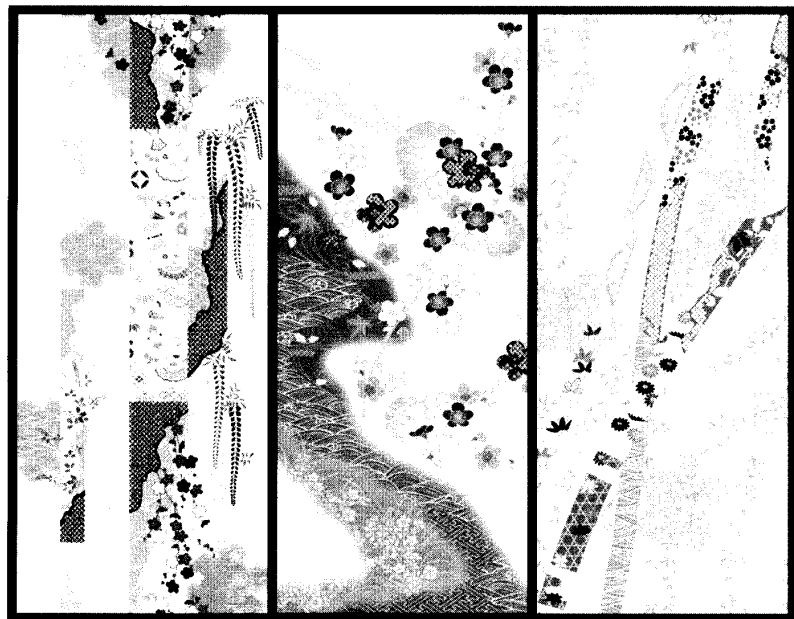


図2

『慶長文様』といわれる、江戸時代初期に盛行した文様を現代的にアレンジした着物の図柄です。伝統的な『慶長文様』の様式美を新しくアレンジすることで、現代に添った伝統を表現しています。

に必要な徒弟制度が時代に馴染まなくなったのもその一因です。このように、図案家は染色作家でも染織の職人でも無い事を、まずはご理解いただきたいと思います。

京都の伝統産業に携わってはいますが、他の分野のデザイナーと同じく常に新しいデザインを生み出さなくては成らない仕事です。

まず、図案家として一人前になるには、以下の知識と技術を習得する必要があります。

1. 描く為の技術の習得（デッサン力と、日本画等の表現力）
2. 伝統文様の意味いわれ知識（季節感、慶弔、家紋など）
3. 花鳥風月、器物、風景、etc. のあらゆる日本的図柄の修得
4. 日本の伝統色の知識
5. 呉服の種類と用途の知識
6. 着物柄の様式と伝統の形の習得
7. 呉服の仕立ての知識、及び染織の製造行程に関する知識
8. 江戸時代以降の着物柄の変遷の知識
9. 着用シーンに相応しい図柄の知識
10. 日本の伝統文化と伝統芸能の知識

上記の事を全て習得して独立するまでには10年～15年の歳月がかかります。

このようにプロの図案家になるのは大変なことから、和装業界には図案を描く専門家が必要になります。着物が将来生き残る為には、『ファッションとしての存在価値』が不可欠です。

ファッションは、その時代に生きる人々のライフスタイルに即していなければなりません。つまり単なる古典柄の継承だけで画一化しては、ファッションには成り得ないのです。着物がファッションとして存在するには、多様化した様々な商品とそれに付随するデザインが必要です。また、その時代にマッチした色を提案する事も図案家の重要な仕事です。このように図案家は、伝統の様式美を継承しつつ時代に即した新しい和柄を生み出すことに存在価値があります。

『和柄とは何か？』

一言で言うと、伝統様式を継承した日本の文様の事です。これは歌舞伎に例えると解り易いと思います。どんなに才能のある俳優でも、いきなり歌舞伎の舞台には上がりません。そこには何百年もかかって研ぎすまされた伝統の『型』が存在するからです。これが、すなわち和柄の様式美、伝統的な意匠の形です。一口に和柄と言っても、日本には様々な分野の和柄が存在します。

伝統的な和柄としては、着物や帯の和柄、陶磁器の絵付けの和柄、漆蒔絵の和柄、襷絵や欄間の和柄、仏壇や家具調度品の和柄etc.・・・

それでは、もしも、和装業界から私たち図案家がいなくなったらどうなるのでしょうか？ 現実問題として、図案家の後継者が育っていません。このままでは、私を除いて、あと20年以内に着物の図案家は日本からいなくなります。図案家が本当にいなくなったら、

その時は間違いなく日本文化は大打撃を受けます。「日本から着物が消える」は言い過ぎかもしれませんが、間違いなく「後世に伝えるべき着物文化が私達の世代で途切れてしまう」ということです。

それにしてもなぜフリーの图案家にメーカーは最も重要な柄作りを頼るのでしょうか？

それは、その特殊性と専門性から图案家を育てるには、まず教える图案家の確保、それ以外に膨大な時間とコストがかかります。それらの理由から多くのメーカーが自社で图案家を育てる事に失敗してきた経緯があるからです。和装業界衰退に伴い年間の生産量が激減し、それに比例して图案家の数も減少していて、現在は图案家の数は需要と供給のバランスを保っている。そのため和装業界の方で、最も图案家に近い存在のメーカーでさえも、图案家がいなくなる事の危機感や影響力を危惧していません。そもそも、現在流通している呉服の柄物の9割以上が私たちの图案を元に製造したものです。帯、手描き友禅、織物の着物等の型染め以外の商品でも、柄物は全て元图案が必要です。

图案家がいなくなるとどうなるかをもう少し具体的にいうと、当然、新しい图案が無いということなので、メーカーは過去の図柄の焼き直しをし始めます。すると、新柄の為の型制作が減少するので、まず型製作所が倒産します。その次ぎは仕事の絶対量が減り（インクジェットプリントが増えるから）型友禅の染工場も大手から倒産していきます。それでも手持ちの型紙の多いところと、インクジェットプリントの染工場だけがかろうじて生き残るかもしれません。しかし、その頃には全体としての年間生産数の激減で、ロットで仕事をこなしている行程（蒸し、水洗、地直し、整理）の工場などの多くが持ちこたえられなくなります。現在、ぎりぎりのバランスで存続している京都の呉服生産の分業システム。それだけに、そんなわずかな綻びで京都の和装産業は崩壊すると思われます。

元々、『分業制』は個々のリスクを少なくする為に生まれました。だから、京都の着物産業は今日まで続いて来たのです。しかし、今となってはその分業制が「共倒れ」という最大のリスクを背負ってしまったのです。

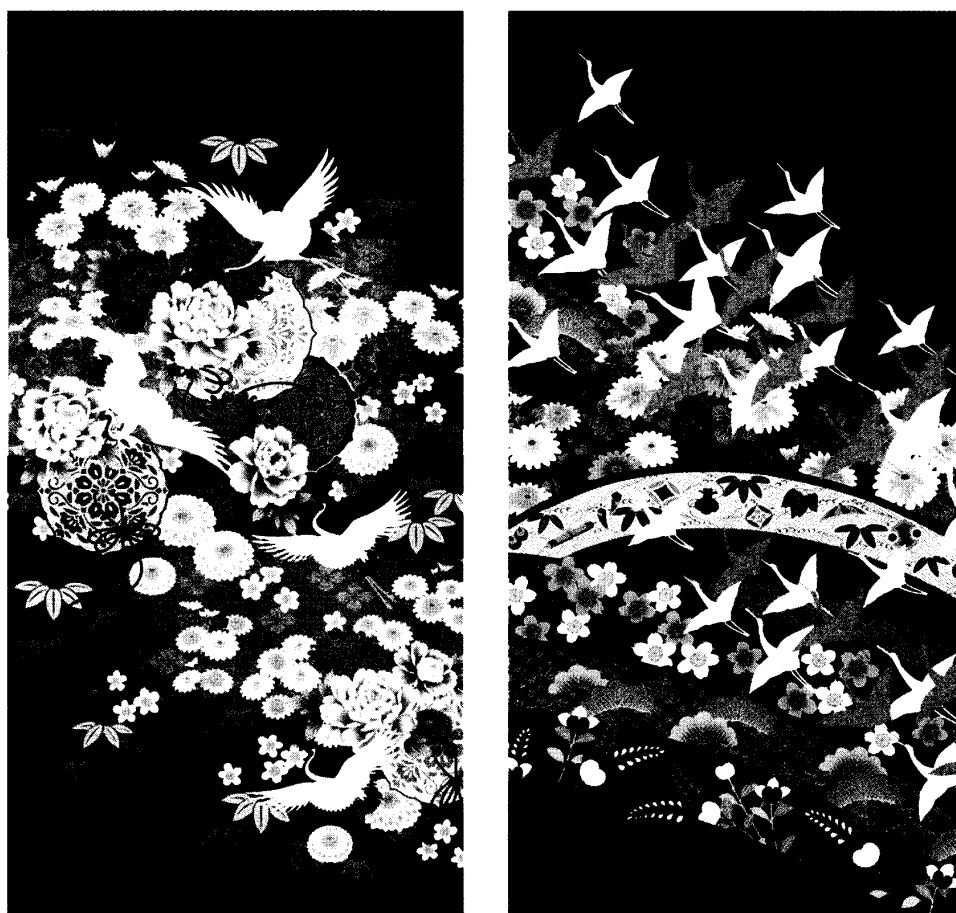


図3 『吉祥文様』を古典的に表現した留袖です。
吉祥とはめでたい兆しを表し、その文様は祝いの際に用いられます。
古典の中にも常に新しさが求められる和柄は、先人との発想の競い合いです。

これは、京都以外の和装産業も例外ではありません。例えば、丹後の「生地産業」も着物の消費に依存している機屋は、当然連鎖的に大打撃を受けてしまいます。その他、『絞り』『刺繍』『金彩』等の仕事も同じ運命を辿ることになり、結果的に専門的熟練を要する業種からは完全に後継者がいなくなります。その後どうなるかは想像に難くありません。20数年後、日本から呉服専門店が無くなり、着物ファンはネットで正絹の見切り品や古い在庫品、安価な合繊の着物を買う事になります。それ以外には洋服店でポリエステル製のプレタ着物が売られ、スーパーの特設売り場だけで浴衣を売っているでしょう。正絹の着物にいたっては良いもの（既にある在庫）は貸衣装屋さんだけが扱う事になるでしょう。そうすると正絹の着物は買う物ではなく、借りる物として定着します。当然流通する着物の主流は古着になります。その他、熟練を要する職人の仕事、例えば仕立ても本格的な手縫いの仕立てをする職人さんは日本から消えます。結果的に着物はニーズがあっても供給できないという事になります。このように庶民の為の和装産業が衰退し、最終的には日本人の為の本物の着物が日本で作れなくなります。行政も伝統産業の後継者育成の為のプロジェクトを立ち上げたりはしているのですが、職人や熟練工を支援するだけで、私達図案家の重要性を知らず、存在すら気づいていないのが現状です。

現在、私は図案家の後継者を育てる為に以下のような取り組みを始めています。

●質の高い和柄を広める為の活動

1. デジタルデザイン素材の制作販売(素材集, 出版物)
2. 異業種, 他分野に和柄の提供

和柄には染織以外に様々なニーズがあります。

ゲーム, アニメ, 映像, グラフィックデザイン, サインデザイン, パッケージデザイン, インテリアデザイン, その他デジタルコンテンツ。

●教育, 育成活動

1. 弟子の育成 (実際に身近において育てています)
2. 講座, 通信教育

学生など, 将来の為に一から学びたいと言う人の為の講座や既にプロのデザイナーとして活躍されている方に, 和柄の基礎とプロとしてのテクニックや知識を教える講座。

●和柄を通して海外にも和の心を広める

和柄の神髄は日本人の伝統的美意識に基づいた様式美です。

大量生産, 大量消費の時代が終わり, 震災等によって, 豊かさを物質に頼ることの空しさを多くの日本人が経験し, 環境問題が人類の共通の関心事となっている時代。ますます, デザインにも意識改革が求められます。これからは, 特に人を幸せにするデザインが求められます。幸せとは, 心の豊かさに他なりません。21世紀に求められるデザインのヒントが日本の精神性に基づいた伝統的美意識にあります。1000年以上続いて来た和柄文化を私達の時代で途切れさせてしまわない事が, 私の使命だと思っています。



図4

この図柄は、『菊桐鳳凰文様』という吉祥文様の一つであり、七五三用の振袖の為の図柄です。

空想上の格式高い生き物とされる『鳳凰』に『菊』と『桐』という吉祥の代表的な植物の文様を組み合わせ、更に格式高い文様として愛されてきたのが『菊桐鳳凰文様』です。

また、『松』も取り入れることで, 女兒の健やかな成長と枯れない美しさへの願いを込めています。

このように, 和柄には中国からの伝統的歴史や, 先代から現代へ受け継がれた作り手の想いが込められています。

受け継がれ続けた歴史と, 単純化された文様の美しさが『日本の伝統美』といえます。